避難所運営シミュレーション

過去の震災に学び　障がい者の備えを考えるデ～【特別編】

ワークショップ「インクルーシヴな避難所運営シミュレーション」

熊本地震では、「ユニバーサルデザイン避難所」と、注目される避難所がありました。電動車いすの方が避難したことをきっかけに、個々のニーズを出し合い、避難者による自主運営となるような運営に努めたところ、結果として、誰もが過ごしやすい避難所となったそうです。今回は、避難所運営シミュレーションワークショップを行い、合理的配慮とは、誰かのためだけということでなく、みんなのためであることを前提にしながら、避難所の運営を考えてみます。とりわけ障がい当事者や支援者が、どのように行動すればいいのか考え、防災施策への提言につなげていきたいと思います。

講師：八幡隆司さん（ゆめ風基金事務局長）

参加者とのワークショプ・話し合い

資料代：５００円　**定員：**８０名

対象者：避難所運営を担当する自治会・町会の方、
一般区民、障害当事者、家族、支援機関職員

日時：２０１８年**１１月３日**（土）14:00～16:30

場所：三軒茶屋キャロットタワー　５Ｆ生活工房セミナールームＡＢ

世田谷区太子堂４丁目 1−1 / 東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅直結

主催：過去の震災に学び障がい者の備えを考える会

ガチャバンともに生きる会/社会福祉法人 自立の家/
TOLI協会/ HANDS世田谷 / ヘルプコネクションひねもす

後援：世田谷区

pal*system
パルシステム東京
この事業は「パルシステム東京市民活動助成基金」の助成を受けて実施されています。

お問い合わせ：HANDS 世田谷

☎03 5450 2861　FAX 03 5450 2862　**メール** hands@sh.rim.or.jp

過去の震災に学び 障がい者の備えを考えるデ～ 【特別編】

避難所運営 シミュレーション

2108 年 11 月 3 日(土)14:00～16:30（13:30 受付開始）

三軒茶屋キャロットタワー5F 生活工房セミナールーム AB

避難所シミュレーションについて

模造紙を使って、紙面上に避難所を開設するワークショップです。数人ずつに分かれてのグループワークとなります。過去の災害の経験から用意された「課題」に対して、どのように対応するか、またどのようにしておけば、避難所が少しでも過ごしやすい場所となるのか、話し合っていきます。

講師: 八幡 隆司さん

ゆめ風基金理事 事務局長

1957 年生まれ。

1979 年、知的障害者授産所施設指導員。

1982 年、障害者の働く場「豊能障害者労働センター」設立。20 代から障害者授産所施設職員、障害者団体が運営する事業所職員として障害者の介護や事業運営にかかわる。

1988～2004 年、大阪府箕面市議。

1995 年 1 月に、阪神淡路大震災の罹災した障がい者を支援するため、兵庫県南部地震障害者救援本部を設立し、全国のネットワークの協力を得て阪神間の障害者支援にあたる。同年 4 月、ゆめ風基金呼びかけ人になる。同年 6 月、ゆめ風基金発足。

2001 年、ゆめ風基金 NPO 法人化に伴い役員となり、防災提言集を手がけるなど防災活動を担当。

2011 年「東日本大震災」では、いち早く被災地にかけつけ、仙台・郡山・盛岡に被災地障害者支援センターを立ち上げ、支援活動を行う。

その後も、2016 年の「熊本地震」や、今年 2018 年では、西日本での「平成 30 年 7 月集中豪雨」、9 月に起きた「北海道胆振東部地震」での支援活動を行っている。

主催:過去の震災に学び 障がい者の備えを考える会(通称:備える会)

備える会は、東日本大震災後に、世田谷区で障がい者の支援活動を行っている 5 団体が集まり、結成されました。これまで 3 回の講演会を、「阪神淡路大震災」「東日本大震災」「熊本地震」を現地で経験し、被災者であり且つ支援者としても活動された方を講師に招き、それぞれの現場からの教訓を学んできました。今回は、話を聞くだけでなく、避難所とはどんな風だったら良いのか、頭と手を使って、考えてみたいと思います。

お問い合わせ: HANDS 世田谷

☎03 5450 2861　FAX 03 5450 2862　**メール** hands@sh.rim.or.jp